

平成 30 度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 大学院生物資源学研究科  
氏 名 立花義裕

活動テーマ	地元テレビ局や気象予報士との協働による三重の『気象力』向上プロジェクト
実施期間	平成 30 年 7 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>平成 30 年度は三重テレビの気象担当の気象予報士のキャスターや三重県庁防災対策部と連携し、定期的な勉強会を開催しつつ、それをベースとして三重テレビにて毎月 2 回の気象情報番組「みえの風紀行」を 4 月から 3 月まで、三重大学の気象・気候関係の教員 5 名が毎回レギュラーとして全 24 回番組に出演した。写真は、ある回の放映時のテレビ局のスタジオでのスナップショットである。左（気象キャスターの多森成子さん、中（大学院生の中西友恵さん）、右（立花義裕）。また、「気象・地震・防災対応への情報発信等の研究に関する覚書」三重大学、三重県防災対策部及び三重テレビ放送株式会社の三者で締結した。</p>  <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>地域の市民に愛され、尊敬され、そして地域の市民が誇れる地元の大学、さらに地元の子供達を入学させたくるような、そういう大学となること。それが地域圏大学としての重要な地域貢献の使命の一つである。世界的な研究成果を上げることもその一つである。それはノーベル賞を取った研究者の出身地や出身大学がある市町村が盛り上がることから自明である。研究力の強い大学ほど地域から愛され、逆に研究力が弱い大学は、よほどの特色が無い限り地域からは無視される駅弁大学になってしまう。我々の気象・気候・防災の研究チームも世界に誇れる研究成果を上げており、研究力においては日本を代表するチームの一つであると自負しているが、残念ながら地域の市民はそれを知らないのが現状である。従って、地域の市民にそれを知ってもらう活動を積極的に行うことが地域貢献のためには極めて重要である。生物資源学研究科・共生環境学専攻には日本気象学会に所属した教員が総勢 7</p>

名いる。気象に係る教員が単一の専攻内に多数結集する地方大学は希であり、この分野では日本を代表する拠点大学となっている。従って、この分野を推進する取り組みを一つの核とすることが、三重大学の強みや特色を活かすことにつながる。三重大学にそのような強み（略称「気象力」）があることは、地元の人たちにはまだまだ知られていない現状があった。それは市民への発信力が足りなかったことも一因であろう。

そのような現状の中で、毎月2回（計24回）の気象情報番組「みえの風紀行」を通じて三重大学での気象・気候関係の研究成果などや気象・気候の基礎知識について、多くの県民へ定期的に発信し続けたことにより、地域の気象力の裾野が広がり、県民の災害・異常気象・地球温暖化等についての基礎知識の向上に貢献した。

### （3）共同実施者との連携状況

月1回の頻度でキャスター等とで勉強会を開催した。また、三重県庁の防災関係の部署とも定期的に勉強会を開催した。

「気象・地震・防災対応への情報発信等の研究に関する覚書」を三重大学、三重県防災対策部及び三重テレビ放送株式会社の三者で締結し、近年の地震や風水害、とりわけ南海トラフ地震等の大規模災害への対応等が求められるなかで、県民が気象や地震等への関心を高め、自然災害からの県民生活の安全・向上等に資する取組を進めるため、県民への情報発信や啓発事業等のあり方を三者相互に連携協力して研究することとなった。なお、この覚書は特段の理由が無い限り毎年自動更新されることから、この取り組みが準恒常的な活動となった。

### （4）大学の教育・研究成果のかかわり

三重大学教員が出演する気象関連番組が定期的に放映されたことで、地元の三重大学に気象・気候系の研究グループのプレゼンスを広く県民へ知っていただく機会を得た。これは、我々の研究グループが所属する生物資源学部・共生環境学科の入試効果にもプラスに作用した。新1年生のアンケートでも気象の研究チームの存在を入学前から知っていたという学生数に増加傾向が見られていることがその証拠であろう。また共生環境学科の学生の出身地は全国に広がっているが、その理由の一つにはこの番組での宣伝効果があったのではないかと感じる。

### （5）イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

（1）にも記載したが、月2回の気象情報番組「みえの風紀行」を4月から3月まで、代表者を含め三重大学の気象・気候関係の教員5名が毎回レギュラーとして全24回（毎月2回）番組に出演した。また関係教員と三重県の協働で実施している「みえ防災塾」の塾生や卒塾生にも、関係教員と一緒に数回この番組に出演してもらった。1月には「みえの風紀行新春トーク」と銘打った番組を、三重大学で大人数での講義を模し多数の学生をも交えて収録、放映した。

### （6）これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

三重テレビの「みえの風紀行」は三重県や愛知県でのみ視聴可能なローカル番組であり、気象・気候・自然災害に関わる専門家と気象キャスターが掛け合いをするトーク番組が毎月定期的に放映されている。このような番組は他の地方のローカル放送や全国放送には存在せず、気象キャスター間の情報交換の場でも三重県の先進性が全国的に話題になっていると聞く。地元密着型のきめ細かい気象予報の制作を通じた放送による、全国ネット放送との差別化にもつながっているであろう。なお、平成31年度（令和元年度）もこの番組は継続されている。

この番組を他県でも見たいという声が各地からあがっていることがweb上でも話題になっている（番組担当の気象キャスター談）。これは大きな成果であろう。今現在は、YouTube等での発信は、諸般の事情で実施していない。しかしこれを

	<p>逆手に取り、「この番組を見るために、放送日（日曜日夕方）に三重県に訪問してね！」という SNS を通じたキャンペーンの展開を今後考えている。これも微力ながらも地域貢献であろう。</p>
--	---